

附「旧回転機械分銅自動巻揚装置」の概要

名称 旧回転機械分銅自動巻揚装置 (きゅうかいてんきかいふんどうじどうまきあげそうち)

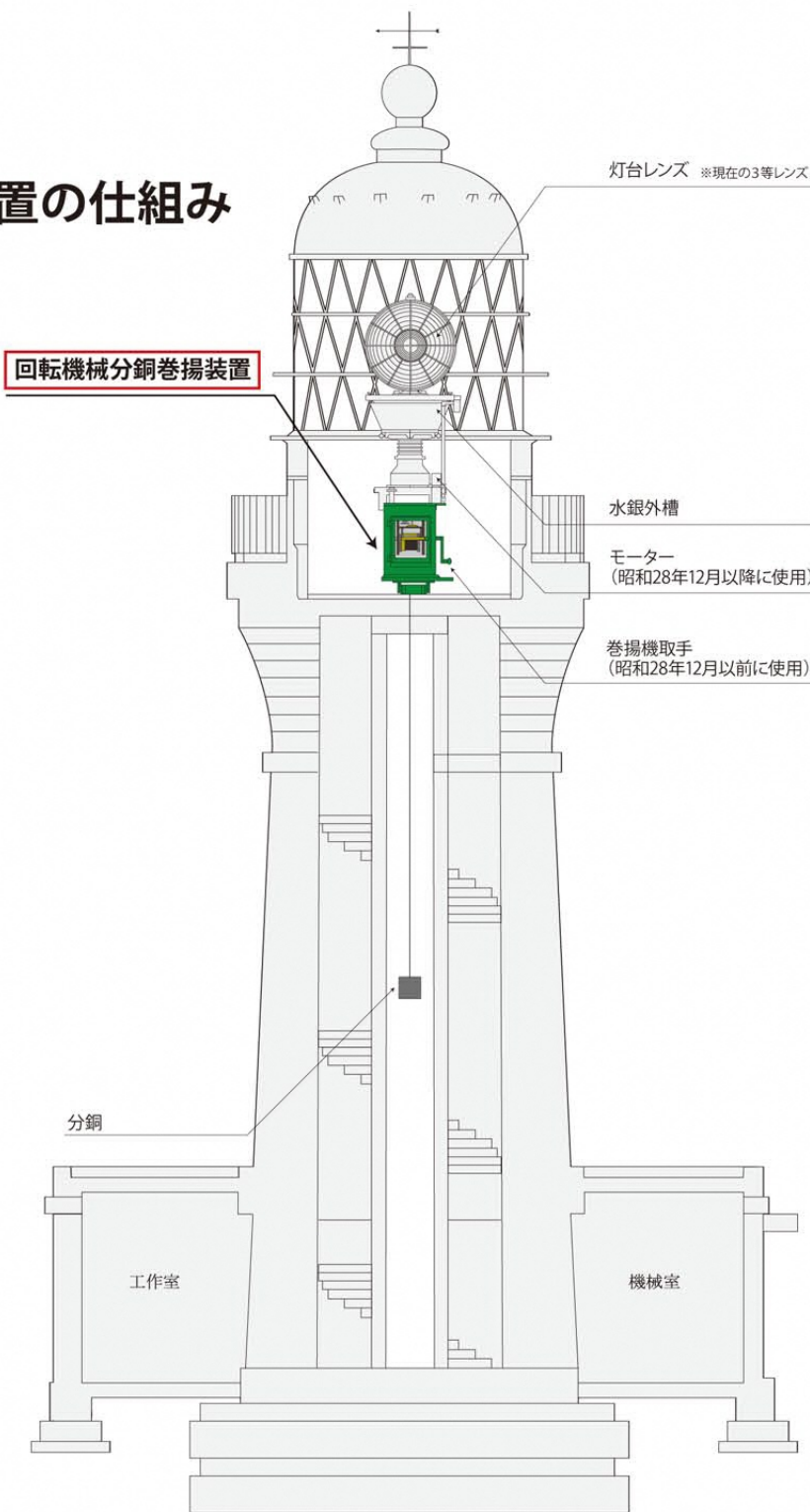
指定年月日 令和3年8月2日

<1>旧回転機械分銅自動巻揚装置の仕組み

旧回転機械分銅自動巻揚装置は、分銅が付いたロープを巻き上げて、分銅の自然落下により生じる力を利用して灯台レンズを回転させる装置の一部で、分銅が分銅筒の一番下(地上)まで落下すると、電動でモーターを回転させ、分銅が付いたロープを自動で巻き上げる装置です。

御前埼灯台をはじめ、日本で西洋式の灯台が築かれるようになった明治初期から昭和の初め頃までは、灯台のレンズの回転に、分銅が付いたロープを人力で巻き上げて、分銅の自然落下により生じる動力で歯車を回転させ、歯車からレンズ台に動力が伝動し、レンズが回転する手動式の巻揚装置が使用されていました。

御前埼灯台で用いられたこの旧回転機械分銅巻揚装置は、昭和25年に日本の会社で製造されたもので、当初御前埼灯台に設置された時は人力で巻き上げる手動式の巻揚装置でしたが、昭和28年12月から電動モーターを利用して改良され自動巻揚装置となり、昭和40年頃まで使用されました。



初期の水銀槽式の回転機械分銅巻揚装置イメージ図